

難治性乳び胸水に対する IVR の有効性に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2025 年 11 月 18 日 ～ 2028 年 12 月 31 日

〔研究課題〕 難治性乳び胸水に対する画像下治療(IVR: Interventional Radiology)の有効性と安全性に関する後方視的観察研究

〔研究目的〕 乳び胸水は胸部のリンパ管からリンパ液が漏出することにより、胸腔(肺などが入っている胸部のスペース)にリンパ液が貯留する病気です。原因は様々で、食道や大動脈の手術後に生じるものや、悪性腫瘍に関連したもの、原因不明のものなどがあります。治療には保存的治療(食事療法、薬物療法など)、IVR (interventional radiology)、手術などがあります。IVR とは画像下治療の略で、X 線透視下や超音波ガイド下に行う治療のことです。保存治療に反応しない難治の乳び胸水に対して IVR が行われることが多いです。乳び胸水に対する IVR では、カテーテルで損傷したリンパ管を塞栓するなどの治療が行われています。手術後に生じる乳び胸水は、手術操作によるリンパ管の損傷が原因であることが多いので、損傷部位を同定してカテーテルで塞栓する IVR は成功率が 90%程度とされ、有効な治療として報告されています。しかし、悪性腫瘍関連や原因不明の乳び胸水に対する有効な治療法は確立されておらず、原因に応じた最適な治療選択アルゴリズムや治療成績はまだ十分に分かっていません。本研究の目的は、難治性乳び胸水の原因別の最適な治療を明らかにすることです。

〔研究意義〕 難治性乳び胸水の原因によった最適な治療戦略を構築できる可能性があると考えます。

〔対象・研究方法〕 2013 年 8 月から 2025 年 8 月までに当院で乳び胸水に対して IVR 治療を受けた患者様につき、診療録に記載されている年齢、性別、病歴や IVR 治療内容・成績などについて電子カルテから情報を取得して解析します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部放射線科学講座

〔個人情報の取り扱い〕本研究で得られた個人情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、厳重に管理します。データ等は、帝京大学医学部放射線科学講座にある鍵のかかる保管庫で保管します。研究終了後には使用した情報は帝京大学臨床研究センターにて 10 年間保管の後に廃棄します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、問い合わせ先までお申し出ください。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 氏名 大場 洋	医学部放射線科学講座	職名 主任教授
研究分担者: 氏名 平野 貴規	医学部放射線科学講座	職名 助手
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1	TEL: 03-3964-1211	(代表)